

日中経済交流研究会新聞

インタビュー vol.32

Zoomインタビュー

社会の変わる時が、変化するチャンス ネットワークが成功のカギ

株式会社津川製作所 津川 礼至 氏



農業用機械、船舶用機器、福祉機器などさまざまな装置に組み込まれる、特殊モーターやアクチュエーター（制御装置）など高性能な製品を生み出しておられる津川製作所さんをオンラインで取材させていただきました。同社は、中国・台湾、韓国、そしてベトナムとアジアの国々に製造拠点を持たれており、このコロナ禍においても製造・輸入を継続しておられるということで、現状や今後の動きも含めお話を伺いました。

コロナ禍——海外との取引にどのような影響が？

国内では、弊社は農業機械や船舶機械関連の機器ではまだ大きな影響は出ていないのですが、今後は在庫調整などの波が来ると予想されますので、気を引き締めているところです。

海外との取引においては、少なからず影響が出ています。中国、台湾、韓国、ベトナムから各種部材を輸入していますが、中国・ベトナムにて、新機種の立ち上げを予定していたところ、現地での立会調整が不可能となり、部材、部品を急遽日本に輸送し、日本での組み立てに変更しました。今後も、当面、現地への出張が難しい状況が続くと思われるため、現地での工程を日本で実施するように変更しています。コストの面など、今後の新機種の設計開発にも大きな影響が出てくると思います。

海外からの輸送貨物について

中国からの輸入貨物は、3月時点では、遅れているものもありましたが、現在はほぼ解消され、予定どおり入荷するようになってきております。ベトナムからの航空便は、ベトナム⇄日本の便が1本/日まで減便となり、荷物スペースの確保で、早めの申し込みが必要ですが、今では、大幅な遅延などの問題は生じていません。台湾・韓国との物流状況はほぼ従来どおりで、安定しています。

今後、予想される懸念などは？

海外出張が不能となり、打ち合わせはオンラインサービスを活用して随時行えるのですが、サンプルの現品確認などは、WEBカメラを通じてだけでは困難で、先に進めるかどうかの判断が難しいことがあります。（表面処理の質感や、加工部品の表面粗度、塗装の色合い、ゴムや樹脂の硬度・強度など）なので、そうした面でも新規案件の開発スケジュールへの影響が深刻化していくのではないのでしょうか。

ベトナムは、中国のようになるのか？ベトナムプラスワンを検討すべきか？

中国からベトナム、カンボジアやバングラデシュ、そしてアフ

リカなどへの進出も検討している企業はあるようですが、いくら人件費が安いからといっても、やがては物流コストなどの兼ね合いで、ある程度場所より遠くでの生産はできなくなると思います。ベトナムは、確かに発展してきてはいますが、中国の発展とはまったくタイプが違います。

賄賂の慣習などもまだまだ横行しており、交通渋滞の改善もままならない状況です。中国より低い人件費は、今のベトナムにとっては競争力を保つために必要なことから、今後もしばらくは続くと考えています。ただ、ベトナム国民は低い人件費と高い物価に悩まされており、優秀な若者は国外へ出たがっています。こうした歪（いびつ）な状況がいつまで続くのかは見極める必要があるのではないかと考えています。

コロナ禍によるこの環境をチャンスとして活かすために

弊社が製造しているモーター製品は、モーターとして使用すれば電気を消費するものですが、逆の発想から考えれば電気をつくり出す「発電機」にもなることが可能です。

パソコンや携帯、電子機器は大きな電力を必要とせず、小さな電気があれば作動するものですから、風力などで小さい電気をつくることができれば、テレワークで電気がないところなどでも仕事や生活ができる可能性が生まれるということになります。社会の変わる時が変化するチャンスとしてとらえ、自社の製品やサービスをあらゆる方向から考えるなど、コロナ禍だからこそできる「考える時間」を有効に生かし、未来へつながる価値創造やアイデアづくりに励みたいと思っています。日中経済交流研究会は、いい意味で支部活動とは少し違う雰囲気やテンションの方々が集まった会だと思っています。どんなことでもそうですが、人とのつながりネットワークをうまく利用することが成功のカギだと思います。これからもたくさんの人と関わっていきたいと思います。よろしくお祈りします。ありがとうございました。

（取材・インタビュー 日中経済交流研究会 広報委員会）